

## 新年の挨拶

2021年を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年8月に着任し、ジャマイカで初めての新年を迎えました。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により私たちの生活は大きな影響を受けました。世界中でコロナ禍が収まらない中で迎える新年ですが、とにかく一日も早い収束を祈らずにはられません。

ジャマイカでは、昨年9月に総選挙が行われ、ホルネス首相が再選されました。日ジャマイカ租税条約が昨年9月に発効しましたが、ホルネス首相が2019年12月に訪日した際に合意した災害救援、海上安全パトロール艇の供与などの合意を着実に実施していきたいと考えています。また、昨年6月に新型コロナ対策支援として合意された2億円相当の医療機材が本年初めにジャマイカに到着予定です。

昨年秋ジャマイカは長雨に見舞われ、洪水や道路陥没、土砂崩れなどの被害が多数発生しました。日本としても同じ島国としてジャマイカの防災、環境保全分野における協力を継続していきます。ちょうど日本では菅総理が2050年「カーボン・ニュートラル」の方針を打ち出し、デジタル化やグリーンエコノミーを推進していくことになっています。ジャマイカとの間でもこの分野で協力を発展させる可能性は大きいと考えます。

2021年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この歴史的な大会が無事開催され、スポーツの力を通じて国際的な友好が深まることを希望しています。昨年12月には鳥取県と姉妹都市関係にあるウエストモアランド県を訪問しましたが、鳥取県はジャマイカのホストタウンです。東京大会を通じ、スポーツ分野の交流、地方自治体同士の交流などを含め、日本とジャマイカ関係全般に弾みがつくことを期待しています。

新型コロナウイルスの感染拡大により中止や延期になったイベントもありますが、昨年11月にはJETの20周年記念行事がオンラインで開催されました。コロナ禍で制限されていた交流も徐々に戻りつつあります。

日本大使館としても、在留邦人の皆様の健康と安全の確保、日本企業の支援に引き続き注力するとともに、この重要な年に、日ジャマイカ関係がさらに発展するよう、最大限の努力をしておりますので、ご支援、ご協力をよろしくごお願い申し上げます。皆様の今年一年のご多幸とご繁栄をお祈りして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

令和3年1月

駐ジャマイカ特命全権大使 藤原 聖也